第３章 まちの将来像

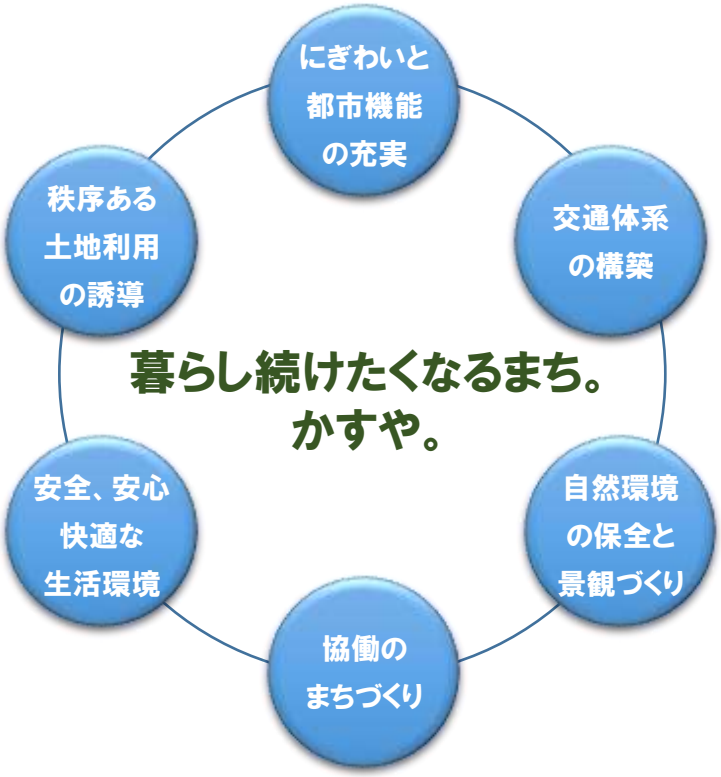
１．将来都市像

将来都市像

暮らし続けたくなるまち。かすや。

**いにしえより受け継いだ交通基盤・都市機能を活かして、
住みたくなる、暮らし続けたくなるまちをめざします。**

全国的に人口減少時代に突入したなか、粕屋町では依然人口増加が続き、アジアに向けて発展する福岡都市圏の一角を占めています。また、九州自動車道福岡インターチェンジに隣接し、多くの幹線や２本のＪＲ線が交差する交通の要衝でもあることから、居住・物流・交通など多様な機能を発揮してきました。これらの交通基盤や都市機能を活かして地域の活性化を図るとともに、より都市機能が充実した「暮らし続けたくなるまち。かすや。」をめざします。



将来都市像を実現するための指針として、都市整備の６つの方向性を定めます。

都市整備の６つの方向性
①ＪＲ駅などの交通拠点を中心に、**にぎわいと都市機能の充実**を図り、集約型のまちづくりをめざします。
②人口増加や産業需要に適切に対応し、**秩序ある土地利用を誘導**します。
③交通の要衝としての役割を果たしながら、環境に優しい**交通体系の構築**をめざします。
④すべての人が**安全・安心・快適に暮らせるまちづくり**をめざします。
⑤貴重な資源である**緑と水辺を守り**、まちのシンボルとなる**景観を育み**ます。
⑥住民・事業者と行政の**協働でまちづくり**を行います。

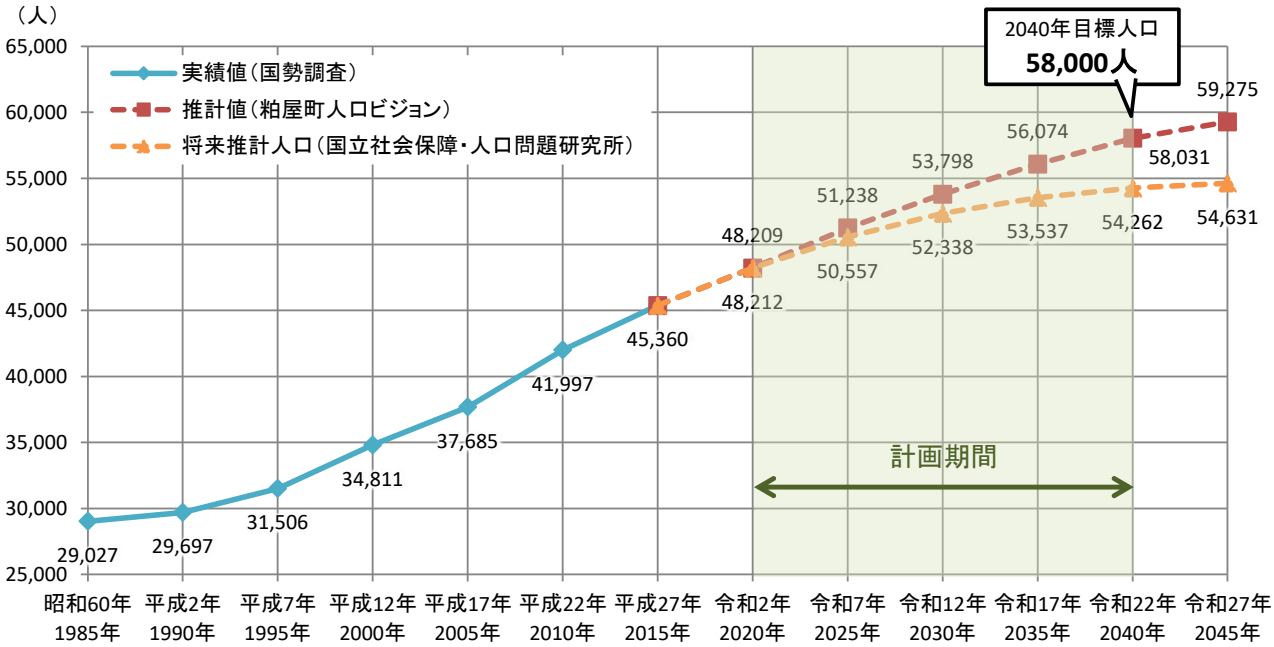
P22～P23「3. 都市整備の６つの方向性」参照

２．目標人口

本町は 14 歳以下の年少人口の割合が高く、今後も人口の増加が想定されますが、高齢化も進むと予測されます。

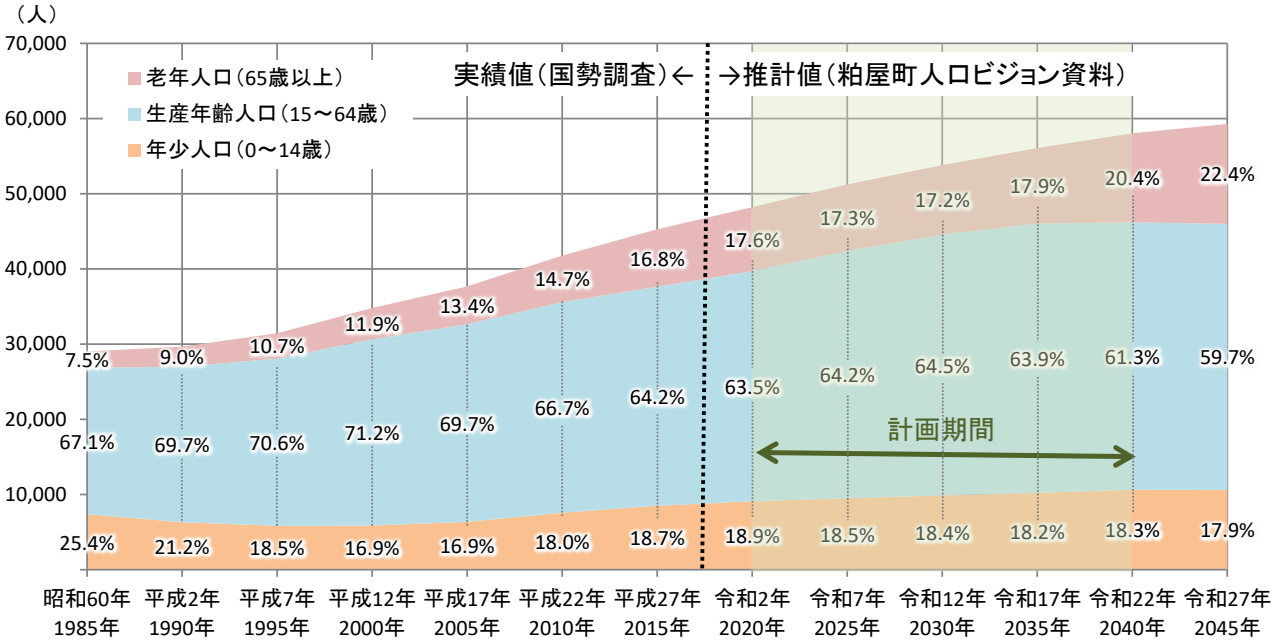
目標年次である 2040 年（令和 22 年）における目標人口は、粕屋町人口ビジョン将来人口展望（推計値を基に設定）と同じく **58,000 人**とします。

■人口の推移と将来推計



［資料：国勢調査、粕屋町人口ビジョン 2020 年 3 月、国立社会保障･人口問題研究所 2018 年 3 月］

■年齢構成人口の推移と将来推計



［資料：国勢調査、粕屋町人口ビジョン 2020 年 3 月］

３．都市整備の６つの方向性

①ＪＲ駅などの交通拠点を中心に、にぎわいと都市機能の充実を図り、集約型のまちづくりをめざします。

公共交通の軸であるＪＲ福北ゆたか線、香椎線を活かした集約型のまちづくりを行います。

まちの中心拠点に位置する長者原駅、原町駅とその周辺では、利便施設・公園などを集約するとともに、市街地の高度利用や景観形成を誘導することで、本町の中心にふさわしいにぎわいのある拠点として充実を図ります。

また、ＪＲ福北ゆたか線柚須駅と門松駅、ＪＲ香椎線伊賀駅と酒殿駅、バス交通の要となっている町南部の大規模集客施設周辺は、身近な地域拠点として鉄道やバスへの乗り換え利便性の向上や生活利便施設の誘導等を図ります。

これら中心拠点と５つの地域拠点を核として公共交通網及び道路交通体系を構築するとともに、住宅用地を確保し利便施設の立地を誘導することで、拠点を中心に市街地がコンパクトにまとまり、誰もが歩いて暮らせ、環境にやさしいまち＝「集約型のまちづくり」をめざします。

②人口増加や産業需要に適切に対応し、秩序ある土地利用を誘導します。

駅周辺の高度利用や市街化区域の農地や低・未利用地の活用とともに、田園地区の農地の秩序ある転用を行い、以下の用地の確保を図ります。

○今後も増加が予測されている人口を受け入れるための住宅用地
○アジアや世界に向けて発展する福岡都市圏において、需要の増大が予想される先進技術産業用地と物流施設用地
○福岡都市圏の東部拠点としての役割を果たすための商業・サービス業用地

農地から都市的土地利用への転換は、目的の用途にふさわしい地域で計画的に実施します。また、市街化区域編入の際には防災や環境、景観などに配慮することで、人口増加や都市機能の集積がもたらしかねない負の側面（自然災害の発生、都市整備コストの増大、景観の混乱など）を防止し、人口や都市機能の量的な拡大が、まちの質的な充実にも繋がっていくことをめざします。

さらに、町西側の住工混在地域のうち柚須駅周辺について、生活環境向上のため住宅地や商業地への誘導を図ります。

③交通の要衝としての役割を果たしながら、環境に優しい交通体系の構築をめざします。

広域的な交通体系の要衝としての役割を担っているため、業務系交通や通過交通が生活交通と混在し、日常的な交通渋滞が発生しています。都市間幹線道路の整備を図り、良好な交通環境を確保します。

また、住民のニーズが高い生活道路における安全性・快適性などを確保するため、歩行者・

自転車を含めた地域住民の利用が主となる補助幹線道路及び各住宅地に接続する生活道路の整備を図ります。

さらに、交通結節点となるＪＲ長者原駅をはじめとした６つのＪＲ駅と南部大規模商業施設周辺を核として、公共交通・自転車・徒歩など環境に優しい交通手段を選択しやすい、地球温暖化防止に寄与するまち（低炭素型のまち）をめざします。

④すべての人が安全・安心・快適に暮らせるまちづくりをめざします。

住民が重視する「歩行者･自転車が安心して通行できる道路の整備」や「防犯のまちづくり」、「地震や水害などの災害に強いまちづくり」、「医療・福祉サービスのまちづくり」など生活レベルの安全・安心・快適な住環境づくりを図ります。

また、子育て世代、高齢世代など多様な世代のニーズを捉えたまちづくりを行います。

⑤貴重な資源である水と緑を守り、まちのシンボルとなる景観を育みます。

多々良川と須恵川は町の豊かな土壌を育んできた貴重な水辺であり、古大間池付近の山林は水源を育む貴重な資源です。また、丸山等の山林は付近に広がる優良な農地とあいまって豊かな里山景観を提供しています。町の田園風景の骨格となっているこれらの河川・森林・農地を保全します。

さらに、中心拠点に隣接する駕与丁公園は住民の貴重な憩いやレクリエーションの場であるとともに、緑豊かな景観を形成しており、住民の多くが最も守るべき景観と考えています。駕与丁公園は本町のシンボルとして更なる魅力向上に努め、市街地の公園などの緑とともに、次世代に引き継ぐべき景観として演出し、育んでいきます。

また、九大農場跡地（予定）で発掘された阿恵官衙遺跡は、町の貴重な歴史資源であり、周辺地区とあわせて新たな顔として整備・活用を図ります。

⑥住民・事業者と行政の協働でまちづくりを行います。

「民有地の緑や景観の向上」、「公園・緑地の参加型管理」、「防犯のまちづくり」、「中心市街地の活性化」などを主要テーマとして、まちづくりにおける住民・事業者と粕屋町の協働のしくみづくりを進めます。

また、まちづくり活動団体の育成や支援によって、住民のまちづくりに対する意識を醸成するとともに、人のネットワークづくりを行います。

４．めざすまちの形 ＜将来都市構造＞

「将来都市像」及び「都市整備の６つの方向性」に基づいた、めざすまちの姿を示します。

【１】拠点

■中心拠点 （ＪＲ長者原駅～原町駅、町役場を含むエリア）	：多様な都市機能が集積している地域で、公共交通の利便性や都市基盤ストックを活かし、本町の中心拠点としての機能の充実を図っていくエリア。 ：本町を印象づける緑の拠点（駕与丁公園）とも隣接しており、まちの顔となるエリア。
■地域拠点 （ＪＲ柚須駅、門松駅、伊賀駅、酒殿駅、南部大規模集客施設を中心とするエリア）	：中心拠点とつながる４つの鉄道駅を中心としたエリアと、町南部の大規模集客施設周辺でバスによる広域交通の要となるエリア。 ：公共交通の地域核として鉄道駅やバスへのアクセス性の向上と、日常的な生活の拠点として生活利便性の向上を図るエリア。

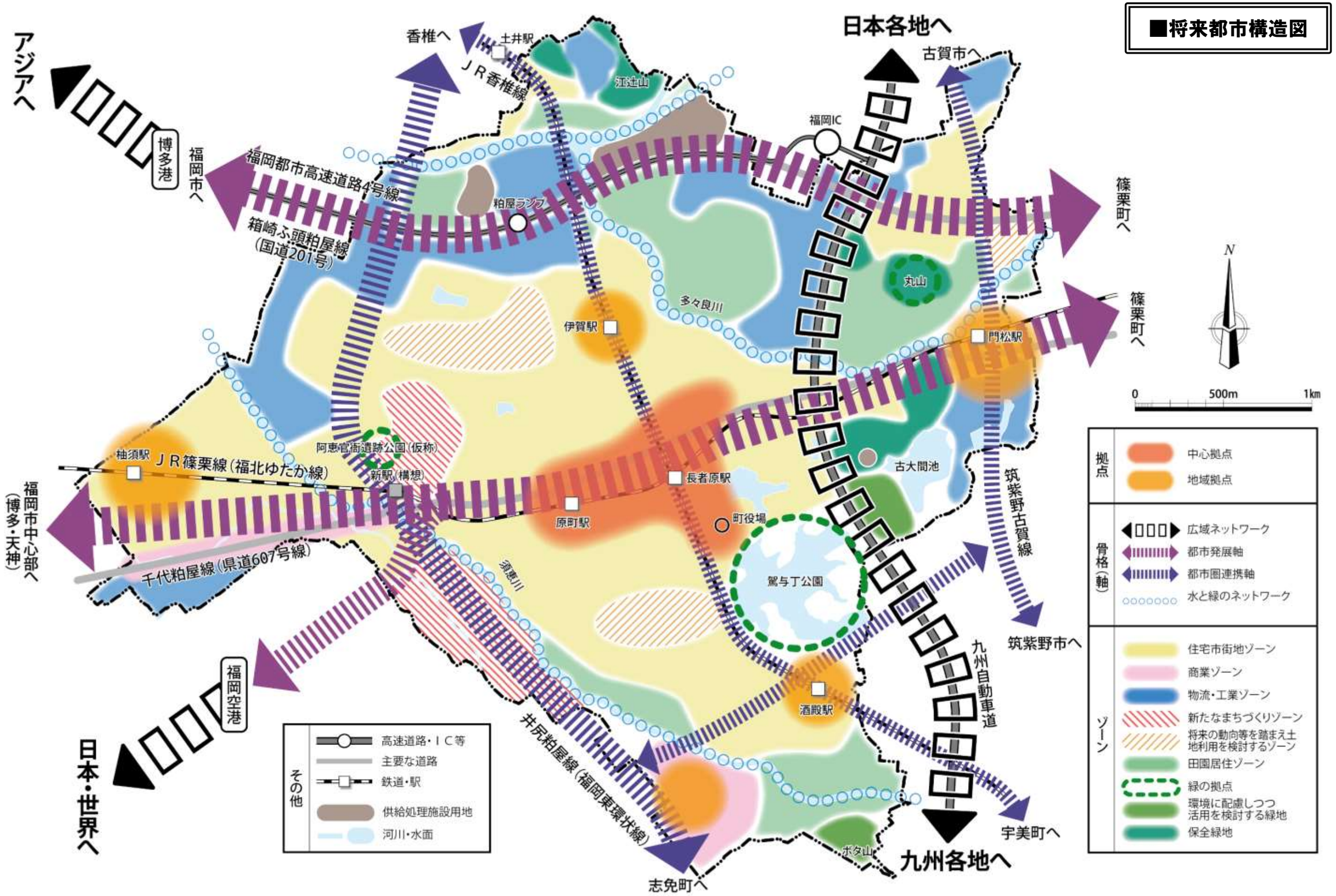
【２】骨格（軸）

■広域ネットワーク	：九州自動車道は本町と九州各地、ひいては日本各地を結ぶ広域的な高速交通軸。
■都市発展軸	：ＪＲ福北ゆたか線及び国道 201 号、県道 607 号線とその沿線は、福岡市中心部と直結し、多くの人やものを運ぶなど、町の都市活動を支え、発展をめざす軸。
■都市圏連携軸	：ＪＲ香椎線及び福岡東環状線、筑紫野古賀線などは、本町と福岡都市圏の各地を結び、都市活動の連携を図る軸。
■水と緑のネットワーク	：多々良川、須恵川は町の豊かな大地を形成してきた河川であり、町の水と緑とをつなぐ軸。

【３】ゾーン

■住宅市街地ゾーン	：住民それぞれの生活の基本となる区域であり、住環境の維持及び改善を図るゾーン。 ：ＪＲ駅周辺など、交通利便性が比較的高いエリアは住宅市街地ゾーンとして優先的に活用を図る。
■商業ゾーン	：沿線地域や交通結節点などに配置する商業集積地であり、福岡都市圏の東部サブ拠点としての商業サービス機能を発揮するゾーン。
■物流・工業ゾーン	：北部の流通業務地区内及びそれに近接して配置する物流施設等の集積地であり、アジアに向けて発展する福岡都市圏のバックヤードとして、その物流・工業機能を背後から支えるゾーン。
■新たなまちづくりゾーン	：福岡東環状線の整備に伴い、九大農場跡地（予定）などの大規模な低・未利用地を活用し新たなまちづくりを進めるゾーン。
■将来の動向等を踏まえ、土地利用を検討するゾーン	：人口や産業等の長期的な需要や動向を踏まえつつ、必要に応じて土地利用を検討するゾーン。
■田園居住ゾーン	：田園や集落の良好な環境や景観に配慮しながら、生活環境の改善を図り、地域コミュニティの維持と活力向上に努めるゾーン。
■緑の拠点	：駕与丁公園、阿恵官衙遺跡、丸山は、町の特徴的、シンボル的な地区であり、緑あふれる住環境の中心、あるいは歴史を学び、触れあえる拠点として保全・活用を図る。
■環境に配慮しつつ活用を検討する緑地	：ボタ山や古大間池西側等の山林は、環境に配慮しつつ活用を図る。
■保全緑地	：焼地山や丸山の保安林、西尾山、江辻山等の山林は、町の特徴的景観の借景となる緑として、今後とも維持・保全を図る。

■将来都市構造図


アジアへ
博多港
福岡市へ
香椎へ
土井駅
ＪＲ香椎線
江辻山
日本各地へ
古賀市へ
福岡IC
福岡都市高速道路4号線
箱崎ふ頭粕屋線
（国道201号）
粕屋ランプ
篠栗町へ
篠栗町へ
丸山
多々良川
伊賀駅
門松駅
N
0
500m
1km
阿恵官衙遺跡公園（仮称）
柚須駅
ＪＲ篠栗線（福北ゆたか線）
新駅（構想）
長者原駅
古大間池
筑紫野古賀線
福岡市中心部へ
（博多・天神）
原町駅
町役場
千代粕屋線（県道607号線）
須恵川
鴛与丁公園
筑紫野市へ
九州自動車道
福岡空港
酒殿駅
日本・世界へ
井尻粕屋線（福岡東環状線）
宇美町へ
ボタ山
九州各地へ
志免町へ
拠点
中心拠点
地域拠点
骨格（軸）
広域ネットワーク
都市発展軸
都市圏連携軸
水と緑のネットワーク
ゾーン
住宅市街地ゾーン
商業ゾーン
物流・工業ゾーン
新たなまちづくりゾーン
将来の動向等を踏まえ土地利用を検討するゾーン
田園居住ゾーン
緑の拠点
環境に配慮しつつ活用を検討する緑地
保全緑地
その他
高速道路・ＩＣ等
主要な道路
鉄道・駅
供給処理施設用地
河川・水面